



2007年巡検参加者の集合写真

[研究会記事] 歴史地震研究会だより 2007 年 4 月～2008 年 3 月

歴史地震研究会幹事会

目次

- ・ 前号以降の歴史地震研究会の活動(2007 年 4 月～2008 年 3 月)と今後の予定
- ・ 2006 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会(2007 年 5 月 20 日)議事録
- ・ 2006 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会(2007 年 8 月 8 日)議事録
- ・ 第 24 回歴史地震研究会(2006 年 9 月 15～17 日)報告
- ・ 第 24 回歴史地震研究会 総会(2006 年 9 月 16 日)議事録
- ・ 2006 年度(2006 年 9 月～2007 年 8 月期)決算, 2007 年度(2007 年 9 月～2008 年 8 月期)予算ならびに 2007 年度事業計画
- ・ 2007 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会(2007 年 10 月 4 日)議事録
- ・ 2007 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会(2007 年 12 月 14 日)議事録
- ・ 2007 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会(2008 年 3 月 4 日)議事録
- ・ 第 25 回歴史地震研究会(2008 年 9 月 13～15 日)開催のお知らせ
- ・ 『歴史地震』原稿募集のおしらせ
- ・ 『歴史地震』投稿規程
- ・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内
- ・ 歴史地震研究会会則(2006 年 9 月 16 日改正)
- ・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2008 年 3 月 4 日現在)

歴史地震研究会の活動(2007 年 4 月～2008 年 3 月)と今後の予定

2007 年

- 5 月 20 日(日) 2006 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会(東京大学地震研究所)
- 8 月 8 日(日) 2006 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会(東京大学地震研究所)
- 9 月 15 日(土)～17 日(月) 第 24 回歴史地震研究会(下田市市民文化会館)
 - 15 日 研究発表会, 懇親会
 - 16 日 研究発表会, 公開講演会「下田の津波とこれからの防災」, 総会
 - 17 日 野外見学会「下田の津波関連史跡をたずねて」
- 10 月 4 日(木) 2007 年度第 1 回幹事会(東京大学地震研究所)
- 12 月 14 日(金) 2007 年度第 1 回行事委員会(地震予知総合研究振興会)
- 12 月 14 日(金) 2007 年度第 2 回幹事会(地震予知総合研究振興会)

2008 年

- 3 月 4 日(金) 2007 年度第 2 回行事委員会(地震予知総合研究振興会)
 - 3 月 4 日(金) 2007 年度第 3 回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- (以下, 予定)
- 9 月 13 日(土)～15 日(月) 第 25 回歴史地震研究会(茨城県つくば市産業総合研究所)

2006 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2007 年 5 月 20 日(日)15:30~18:00

場所:東京大学地震研究所 2 号館 2F 講義室

出席者:都司(会長), 武村(副会長), 小松原, 北原, 植竹, 林(以上, 幹事)

議事

1. 2007 年下田大会の準備

9 月 15~17 日に開催する第 24 回歴史地震研究会について, 北原行事委員長から下田市との打ち合わせ結果の報告があり, 今後の準備の進め方について議論した。

(報告)5 月 9 日に下田市役所において, 研究会(都司会長, 武村副会長, 小松原総務委員長, 北原行事委員長)と下田市(市民課山崎課長ほか, 教育委員会土屋生涯学習課長ほか, 市史編纂室佐々木委員, 葵学園石川副理事長), 静岡県加茂地域防災局(松井主任)で打合会を行った。新たに確認した内容は次のとおり。

- ・大会への後援について, 静岡県とは手続中, 内閣府政策統括官(防災担当)とは交渉中である。
- ・9 月 16 日午後の講演会は全部で 2 時間。司会は北原糸子氏。下田市長のご挨拶の後, 佐々木忠夫(下田市史編纂委員), 都司嘉宣(東京大学准教授), 羽鳥徳太郎(元東京大学), 西山昭仁(大谷大学)の 4 名の講演, 質問等と進行する。
- ・講演会当日の会場受付の要領は, 下田市で決める。市民来場者の受付は, 下田市が主に対応し, 歴史地震研究会会員も適宜受付を分担する。
- ・講演会での参加者への配布物は下田市が担当する。歴史地震研究会は, このうち講演会の内容に関する説明文を作成する。
- ・市広報誌用, 下田市から近隣自治体への案内原稿を歴史地震研究会が作成すること。
- ・会場には駐車場がなく, 連休中で観光客の混雑もある。参加者には, 車で来場しないように案内する。
- ・巡検の見学箇所などは, 次回の打ち合わせで検討する。

打合せ後の進捗について, 北原行事委員長から次のとおり報告があった。公開講演会の演題は, 各演者から連絡を受けた。講演会では, 地元の方からの質問を積極的に受け付ける方針である。巡検はボランティアガイドとともに徒歩で実施するが, 巡検コース案として, ホテル薬岬を出発して市内の寺院や津波浸水域を巡って 3 時間程度で解散とし, 博物館等の有料施設と昼食場所には寄らないものを作成した。

(今後の準備の進め方)

報告を受けて, 今後の大会の準備の進め方を確認した。

研究発表会の演題の締め切りは 5 月末である。6 月初旬にプログラムを編成して, 座長を決め, 地震学会ニュースレターの 6 月 10 日締切りに原稿を間に合わせたい。地元関連の発表を公開講演会の日午前に割り当てるように配慮する。また, 座長は, なるべく若手とベテランの二人組にするのがよい。

大会期間中のお弁当は 2 日間, 仕出し屋に会場まで配達してもらおう。懇親会に下田市長ら 4 名を招待予定であると市に申し入れることとした。なお, 懇親会の会費は 5,000 円(会場のホテル宿泊者は割引を受けられる)とする。

巡検コース案を 6 月下旬頃にボランティアガイドとともに下見して, コースを確定することとした。巡検参加者全員を国内旅行保険に加入させるため, 事前に参加者の氏名・住所・電話番号を把握することとした。巡検の参加費は, ガイドへの謝礼・資料代・保険代を考慮して 1 人 1,000 円とする。

大会案内(6 月 10 日締切の日本地震学会ニュースレターに投稿する)に公開講演会の演題と研究発表会プログラムを含めること, 巡検参加者の保険登録のための連絡, 車で来場の際に参加者が駐車場を確保する必要がある旨の注意も, 今後の大会案内の中で触れることを確認した。6 月下旬までに公開講演の概要を下田市に連絡するために, 原稿を作成することも確認した。

2. 総会の開催について

下田大会期間中の9月16日に歴史地震研究会総会を招集する。議事は次回の幹事会で検討する。

3. 研究会の他学会への紹介

下田大会の案内を「地方史研究会」の学会誌に掲載依頼したことについて、北原行事委員長より報告があった。このような他学会を通じた研究会の紹介について、意見交換をした。

大会案内を地震学会以外のニューズレターにも掲載を希望していくことは有意義だ。特に、歴史系の学会(例えば日本史研究会、歴史学研究会)で災害史の研究が注目されつつあるので、検討すべきだろう。また、他学会のホームページとの相互リンクを働きかけることもあってよい。

4. 2008年大会について

2008年大会は、幹事会としては、つくば開催案で準備を進めているが、会期を9月13～15日、会場を産業技術総合研究所講堂という案が小松原幹事から示された。この場合、会場の都合で産業技術総合研究所が後援団体となること、外食は不便であること、車での来場はできないという条件を伴うが、これらは幹事会として支障がないと判断し、会場の予約を申し込むこととした。

つくばでの大会のあり方について意見交換をした。巡検につくばらしさを期待する意見があり、研究施設や博物館のアーカイブスの解説をしてもらう形態での実施が可能かどうか、候補施設に所属する会員を通じて調べることとした。

5. 各委員会報告

広報委員会より:musha メーリングリストのメンバー更新を年に一回行っているが、現在更新の作業中。

編集出版委員会より:「歴史地震」第22号を4月に発行した。

6. 総会の開催について

下田大会期間中の9月16日に歴史地震研究会総会を招集する。総会の議題は各幹事がリストアップし、次回の幹事会で検討することにした。また、次期役員候補者についても、幹事会で検討する。

第5回幹事会の日程

2007年8月8日(水)15時30分から東京大学地震研究所で開催する予定。

2006年度第5回歴史地震研究会幹事会議事録

日時:2007年8月8日(水)15時30分～18時

場所:東京大学地震研究所第三会議室

出席者:都司(会長), 武村(副会長), 北原, 小松原, 植竹, 林, 宍倉(以上幹事)

1. 下田大会準備報告

○小松原幹事から以下の報告があった。

- ・内閣府、静岡県など各関係機関から後援について承認を頂いた。
- ・発表会プログラムはほぼ確定、座長も依頼済み。
- ・下田市に公開講演会の宣伝を依頼済み。

○見学会(巡検)について:

- ・都司会長、北原幹事が下見を実施。
- ・下田市(一般)からの参加者を8月末まで募集するため、参加者はまだ確定しない。現時点で40名、最終的には50名程度となる見込み。

- ・1グループ10人程度の5グループで行動する。いずれのグループも同じ場所を回るが、グループごとに順番を変える。
- ・各グループに地震・津波関係の説明ができる専門家を一人ずつ入れる。都司さん、羽鳥さん、北原さん、永井さん、渡辺さんをそれぞれのグループに配置する。
- ・前の晩に案内者でミーティングを行う。総会後の午後6時～6時半を予定。ボランティアさんとも顔合わせをする。
- ・見学会資料はおおよそ完成、あと地図をつける。
- ・見学会中、参加者の荷物はホテルにキープできるよう願います。
- ・見学会当日朝に、全員集合、概要説明、ボランティアさん紹介、資料配付を実施。集合写真はこのとき撮る。

○宿泊・懇親会について:

- ・ホテルの都合で個室は認められなくなった。個室希望の人は相部屋になってもらうか別の宿に移ってもらうことになる。
- ・当初確保していた18部屋について、ホテル側から一部返上を求められた。こちらとしては、3人部屋を基本とし、女性部屋3部屋、男性部屋10部屋、夫妻用1部屋は確保するように対応する。
- ・懇親会費について、ホテル宿泊者はプラス1000円、それ以外は5000円としていたが、こちらの事情で別の宿に移ってもらった参加者も5000円というわけにはいかない。そこで総額を元に参加者で頭割りにするように検討する。
- ・下田市から4名懇親会に招待する。

○予稿集について:

- ・原稿は7月31日時点で半分程度。その後の到着分は未確認。
- ・印刷屋さんには再来週発注予定。発行部数は60部程度とする。
- ・巡検案内書は100部。コピーで対応する。

○今後の予定など:

- ・今週中に静岡県庁を通じて広報をお願いします。
- ・9月14日、市役所への挨拶、午後に会場設営。
- ・当日の会場係(受付やマイク係など)は身内でやる。小松原幹事が参加者の中から適当な人に依頼する。
- ・受付で参加者から徴収するお金について、参加費、巡検代、懇親会費、昼食代(1日目、2日目)について支払い有無を事前に把握しておく。
- ・ボランティアさんの謝金、講師謝金を準備しておく。
- ・昼食は弁当(1000円)を地元のお店に現時点でわかっている数で発注。直前に再確認して調整する。
- ・公開講演会について、進行役は北原幹事。締めの挨拶を伊藤和明さんをお願いする旨確認した。
- ・大会後、後援の内閣府、静岡県へ大会収支報告を行う。

2. 総会の議題について

- ・総会で諮る来期の運営体制について検討を行った。
- ・規約改正は、今回は見送る。
- ・総会にて査読制度を明文化した編集規定案について説明する。

3. 他学会とのリンクについて

- ・北原さんより歴史学研究会、日本史研究会などへ依頼予定。
- ・会誌の交換を行い、先方で寄贈書として会誌の紹介をしてもらう。

4. 2008年大会について

- ・産総研共用講堂(100人収容)を9月13、14、15日の三日間確保済み。
- ・見学会は地理院を予定。地理院で古地図(古地震・古地理)に関する企画をしていただけるか打診中。

5. そのほか

・都司会長より会誌「歴史地震」が学術刊行物として認可されたことが報告された。

第24回歴史地震研究会(2007年9月15～17日)報告

宝永東海南海地震から300年を迎える2007年、静岡県下田市のご協力を得て、9月15日(土)から17日(月)の日程で、研究発表会・公開講演会・総会・野外見学会が実施されました。研究発表会には67名が参加(うち野外見学会は49名)し、28件(口頭24件、ポスター4件)の発表がありました。また、内閣府中央防災会議災害教訓の継承に関する小委員会「1854安政東海地震・南海地震」の報告会を兼ねて、公開講演会が開催されました。

会場：静岡県下田市市民文化会館

日程：

2007年

9月15日(土)、16日(日)午前

・研究発表会(主催：歴史地震研究会・下田市)

9月16日(日)午後

・公開講演会「下田の津波とこれからの防災」

(主催：下田市・歴史地震研究会、後援：静岡県・内閣府政策統括官(防災担当))

・総会

9月17日(月)

・野外見学会(主催：歴史地震研究会・下田市)：下田の地震津波史跡をたずねて

詳しいプログラムは以下の通りです。

9月15日(土) 研究発表会一日目、懇親会

09時～17時 研究発表会(下田市市民文化会館1階小ホール)

口頭発表(10時30分～12時00分)

セッション1[地震像の復元] 座長：諸井孝文

1. 武村雅之・神田克久(鹿島)：震度データから決まる震源と決まらない震源
2. 松浦律子(地震予知総合研究振興会)・中村 操・唐鎌郁夫(防災情報サービス)：
江戸時代の歴史地震の震源域・規模の再検討作業—1718年伊那の地震など8地震について
3. 佐竹健治・宍倉正展・行谷佑一(産総研)・藤良太郎・竹内 仁(国際航業)：
元禄関東地震の断層モデルと外房における津波
4. 行谷佑一(産総研)・都司嘉宣・瀬瀬一起・三宅弘恵(東大地震研)：
1854年安政南海地震震度分布の経験的グリーン関数法による検討

セッション2[災害対応] 座長：西山昭仁

5. 林 能成・木村玲欧(名大)：連続震災における災害対応課題の発見
～1944年東南海地震と1945年三河地震の事例から～
6. 木村玲欧・林 能成(名大)：被災者体験談をもとにした1944年東南海地震における津波避難

ポスター発表(13時00分～14時15分)

7. 中村亮一(東電設計)・島崎邦彦(東大地震研)：歴史地震の地震タイプの分類
8. 青島 晃(磐田南高)・土屋光永(浜松南高)・野嶋宏二・松井孝友・中野幸子
アンケート調査から推定した1944年東南海地震による三重県南部の津波到達時間

9. 長尾 武:安政南海地震津波の大坂への到達時間, 津波の高さについて
10. 桜井貴子:記紀から抽出した弥生期の由布岳の活動

口頭発表(14時30分～17時00分)

セッション3[南海トラフの地震津波] 座長:堀川晴央

11. 井若和久・田邊 晋・山中亮一・上月康則・村上仁士・松下恭司(徳島大):
徳島県鳴門市周辺における安政南海地震の震度分布
12. 田邊 晋・井若和久・山中亮一・上月康則・村上仁士(徳島大):
歴史史料にみる海域における津波の再現性の検証

セッション4[地震被害] 座長:白石睦弥・松浦律子

13. 諸井孝文(鹿島):2007年能登半島地震の震度と被害の特徴および
旧版地形図による検討
14. 植村善博(佛教大):1931年ホークスベイ地震の被害と復興—ネーピアの事例—
15. 中村 操(防災情報サービス)・松浦律子・南雲秀樹(地震予知総合研究振興会)・
山田 眞(早稲田大):1855年安政江戸地震の被害について
16. 西山昭仁(大谷大)・小松原琢(産総研):宝永地震(1707)における
大坂での被害とその地理的要因
17. 白石睦弥(弘前大):寛政西津軽地震・津波による津軽西海岸地域の被害と地形変化

セッション5[地震に伴う土砂災害] 座長:宍倉正展

18. 井上公夫:善光寺地震(1847)による虫倉山周辺, 特に臥雲院付近の土砂災害

19時～21時 懇親会(伊東園ホテル薬岬(はなみさき)大宴会場)

9月16日(日) 研究発表会二日目, 公開講演会, 総会

09時00分～11時30分 研究発表会(下田市市民文化会館1階小ホール)

口頭発表

セッション6[地形・地質から見た歴史地震] 座長:植村善博

19. 河内一男:越後平野で発生してきた被害地震とその縁辺に配列する活断層との関係
20. 宍倉正展(産総研)・越後智雄(地盤研)・前杵英明(広島大)・石山達也(東北大)
・永井亜沙香(広島大):歴史地震の隆起を記録する紀伊半島南部沿岸の
化石ヤッコカンザシ
21. 金田平太郎(産総研)・木下博久(復建設計)・小松原琢(産総研)
群列ジオスライサー調査に基づく琵琶湖西岸断層帯南部の最新活動時期
— 1185年元暦京都地震時活動説を裏づける地形・地質学的証拠

セッション7[三陸の地震・津波] 座長:行谷佑一

22. 植竹富一・野口厚子(東京電力): 1933年昭和三陸地震の地震記象と
2005年11月15日三陸沖の地震による強震記録の比較
23. 渡邊 健(渡辺探査技術)・宇佐美龍夫:明治三陸地震津波による青森県三沢市域の被害史料
24. 山下文男:明治三陸津波(1896)における綾里・白浜での津波駆け上がり地点をめぐる
誤解と誤報を正す

セッション8[静岡県の地震・津波] 座長:都司嘉宣

25. 藤原治(産総研)・小野映介(名大)・佐竹健治・澤井祐紀(産総研)・海津正倫(名大)・矢田
俊文(新潟大)・阿部恒平(筑波大)・池田哲哉(復建設計)・岡村行信(産総研)・佐藤善

輝(名大)・Than Tin Aung(産総研)・内田淳一(熊本大):静岡県掛川市南部の横須賀城址周辺の地層に見られる1707年宝永地震の痕跡

26. 羽鳥徳太郎:伊豆半島沿岸の津波累積エネルギー分布

27. 小野友也・都司嘉宣(東大地震研):元禄地震津波(1703)の伊豆半島東海岸での遡上到達点の詳細調査

28. 都司嘉宣・小野友也(東大地震研):元禄関東地震(1703)の神奈川県・静岡県内詳細震度分布

13時～15時30分 公開講演会

公開講演会【静岡県の地震・津波】 座長:都司嘉宣

会場:下田市市民文化会館 2階大ホール

司会:北原糸子(神奈川大)

プログラム:

講演 1. 佐々木忠夫(下田市史編纂室長)

「下田の歴史と地震津波」

2. 羽鳥徳太郎(元東京大学講師)

「伊豆半島沿岸地域における歴史津波の波高分布」

3. 西山昭仁(大谷大学研修員)

「安政東海地震・南海地震の教訓」

4. 都司嘉宣(東京大学准教授)

「安政東海地震津波(1854)に学ぶ津波の法則と教訓」

公開討論

16時～17時30分 総会(下田市市民文化会館 1階小ホール)

9月17日(月)野外見学会

08時30分～15時30分 野外見学会「下田の地震津波史跡をたずねて」

案内者:下田市観光ボランティア協会ボランティアの方々

見学スケジュール:09時00分 伊東園ホテル薬岬玄関前に集合

見学地

波除地藏尊, 今村伝四郎碑, 波除堤, みなと橋, 稲田寺(津波塚, 阿弥陀如来像), 海善寺(大目付筒井肥前守政憲宿所), 宝福寺(本堂唐紙津波痕跡<現在なし>, 唐人お吉墓所), 下田八幡神社(石段3段目津波浸水, 下田総鎮守, 重要文化財鰐口), 泰平寺(勘定奉行川路左衛門尉聖護宿所), 本覚寺(津波塚), 了仙寺(本堂柱檣船が衝突, 日米和親条約付録の調印場所, 今村三代墓), ペリーロード等(班による)

12時00分 下田市市民文化会館で解散

第24回歴史地震研究会 総会議事録

日時:2007年9月16日(日)16:00～17:30

場所:下田市市民文化会館 小ホール(静岡県下田市)

・全会一致で村上仁士氏を議長に選出.

・総会には全会員数の10分の1の実出席を要する. 定足数20名を上回る37名の会員が出席し, 総会の成立を確認.

○議事

1. 2005 年度活動報告(都司会長)

- (1) 第 23 回歴史地震研究発表会 大船渡大会の開催(2006/9/15~17).
 - ・於:大船渡プラザホテル 2F「飛翔の間」(岩手県大船渡市).
- (2) 会誌『歴史地震 第 22 号』の発行(2007 年 3 月)
- (3) 2006 年度幹事会活動報告
 - ・東京大学地震研究所において, 2ヶ月に1度幹事会を開催した.
 - ・会誌『歴史地震』が, 郵政公社により学術論文誌として承認されたので, 郵送費を安くすることが可能となった.
 - ・会誌『歴史地震』に掲載の論文を査読付き論文として評価されることを目的として, 論文の査読制を編集規定に明文化することを検討した. ただし, 著者の希望などにより今までどおり査読を行わないジャンルを残す.

2. 各委員会報告

- (1) 編集出版委員会報告(林編集出版幹事)
 - ・会誌『歴史地震』の編集規定に, 査読制の採用を明文化する.
 - ・羽鳥氏から, 英文の会誌タイトル及び英文の目次を入れて欲しいとの要望あり.
 - 次号の『歴史地震』からそのように対処する旨, 編集幹事より回答.
- (2) 広報委員会報告(植竹広報幹事)
 - ・幹事が小山氏から植竹氏に変更になった.
 - ・小山氏は広報委員に就任した.
 - ・業務としては, HPの管理, メーリングリストによる大会案内の通知, 大会案内の日本地震学会ニューズレターへの掲載.
- (3) 行事委員会報告(北原行事幹事)
 - ・第 24 回歴史地震研究発表会 下田大会の開催(2007/9/15~17).
 - 於:下田市市民文化会館 小ホール・大ホール(静岡県下田市).
 - ・9 月 17 日の巡見では, 地元のボランティアガイドの案内で下田の町を歩く予定.
- (4) 総務委員会報告(小松原総務幹事)
 - ・業務としては, 庶務を取り仕切り, 対外的な交渉を行った.
 - ・会員から, 来年の歴史地震研究発表会をつくばで行なわれる Asian Seismological Commission と連続する日程で開催すること, および中国やアジアの地震研究者と共同研究を行うべきとの提案があったが, 受け入れ態勢が十分でないため, 従来どおりの開催とするよう幹事会で決定した.

3. 2006 年度決算報告(宍倉財政幹事)

- ・別紙「歴史地震研究会 2006-2007 年度 決算報告」を参照.
- ・収入¥604,239, 支出¥389,082.
- ・前年度繰越金¥874,576, 次年度繰越金¥1,089,733.

4. 2006 年度会計監査報告(上田会計監査役)

- ・別紙「歴史地震研究会 2006-2007 年度 決算報告」の内容について, 帳簿等を確認して了承.
 - ・今村会計監査役より, 資産(繰越金)が多すぎるため, 今後, 課税の対象になる可能性を指摘されたとの報告あり.
 - ・山下氏から, 繰越金は貯めておいて有効に使った方が良いと意見あり.
- 質疑の後, 全会一致で「歴史地震研究会 2006-2007 年度 決算報告」(別紙)が承認された.

5. 入退会者報告(宍倉財政幹事)

- ・2007年8月31日時点の会員数:201名(新規入会21名,退会13名)

6. 役員を選出

役員任期はいずれも,来年度の総会までである.

<会長選出>

全会一致で北原糸子氏を選出.新会長より,「歴史系の学会へのPRを図る.防災への新たな視点について模索する」という所信表明があった.

<幹事の指名>

北原会長が5名の幹事を指名し,それぞれ担当する委員会を次のとおり指定した.

- ・小松原 琢幹事(総務委員長),宍倉正展幹事(財政委員長),堀川晴央幹事(行事委員長),植竹富一幹事(広報委員長),松浦律子幹事(編集出版委員長)

<監査役選出>

永井氏と渡邊氏の監査役就任を全会一致で承認.

7. 2007年度予算と2007年度事業計画

(1) 2007年度予算案(宍倉財政幹事)

- ・別紙「歴史地震研究会 2007-2008年度 予算案」を参照.
- ・収入:会費¥597,000(199名×¥3,000)
- ・支出:¥402,420

(2) 2008年度大会開催地・日程(北原会長)

- ・場所:茨城県つくば市の産総研内

日付:2008年9月12日(金)~14日(日) [編者注:日程はその後変更されている.]

(3) 2007年度予算承認

- ・別紙「歴史地震研究会 2007-2008年度 予算案」の内容について,質疑の後,全会一致で「歴史地震研究会 2007-2008年度予算」(別紙)と事業計画を決定した.
- 以上で閉会

2006年度(2006年9月～2007年8月)決算, 2007年度(2007年9月～2008年8月)予算ならびに2007年度事業計画

歴史地震研究会 2006-2007年度 決算報告

	項目	決算額	内訳
収入	2006-2007年度会費	549,000	183名×3000円
	2005-2006年度以前会費(未払い者)	33,000	
	2007-2008年度以降会費(先払い)	12,000	
	会誌バックナンバー売り上げ	10,000	5部×2000円
	銀行利息	239	
	前年度繰越	874,576	
	合計	1,478,815	
支出	大船渡大会補填	34,144	
	下田大会準備費	67,770	
	歴史地震22号印刷代	202,125	250部+別刷り
	会誌・別刷り送付代	38,610	
	名簿作成費用	16,075	
	幹事会開催費	0	
	HP管理費	12,420	
	通信費	16,540	
	雑費(消耗品費など)	1,398	
	合計	389,082	
	次年度繰越金	1,089,733	

2006年8月31日時点の会員数:201名(新規入会21名, 退会13名)
会費未納者:18名

歴史地震研究会 2007-2008年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	597,000	199名*×3000円
	前年度繰越	1,089,733	
	合計	1,686,733	
支出	会誌印刷費(歴史地震23号)+別刷り	210,000	(250部)
	会誌送料	40,000	
	HP管理費	12,420	
	雑費(通信費・文房具購入など)	20,000	
	下田大会補填	100,000	
	次回大会準備費	20,000	
	合計	402,420	
	次年度繰越金	1,284,313	

* 納付会員数は外国会員のAtwaterさん, 秋さんを除いたもの

2007年度事業計画

歴史地震研究会は, 2007年度(2007年9月～2008年8月)に, 以下の事業を実施する.

1. 第25回歴史地震研究発表会を, 2008年9月半ばに産業総合研究所共用講堂(茨城県つくば市)で開催する.
2. 会誌『歴史地震』第23号を650部発行する. うち, 250部は会員配布分, 400部は公的機関配布分.
3. その他, 必要な事業

2007 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2007 年 10 月 4 日(木)17:00~19:30

場所:東京大学地震研究所第 3 会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 植竹, 小松原, 宍倉, 堀川, 松浦(以上, 幹事) オブザーバー都司(前会長)

議事

1. 2006 年度の反省とまとめ

- ・ 総会に関して:総会では人事に関連して個人攻撃的な発言があったが, このような事態を回避するためにも, 会長, 監査, 幹事に関する新たな選挙規定を設ける方が良い。
- ・ 大会準備に関して:大会準備にあたって一部幹事に過大な負担が生じたが, 今後は行事幹事の下に委員会を設けて複数者で担当することとする。
- ・ 地方大会の進め方に関して:自治体などとの共催・後援のありかたは慎重にすべきではないか? 大学など学術機関を利用することを考えた方が良いのではないか, という意見が出された。研究会として今まで取り組んできた, 自治体との関係や防災講演の開催を全面的に見直すことは好ましくなく, より良い形で続ける工夫をすべきという意見が出された。特に市民向け講演については様々な意見が出されたが, 今年度幹事会でさらに検討する

2. 編集規定について

- ・ 前・今年度編集委員会で作成した編集規定案を一括して承認。次号の歴史地震から適用する。
- ・ 新編集規定は, 総会議事録・原稿募集・標準型式と共に会員向けに郵送する。
- ・ 完成原稿は可能な限り word で提出するように著者に依頼する。Vista で原稿を作成する人は互換可能な形式で送るよう要望するが, 編集規定には明記しない。
- ・ 図書館などへの配布分の印刷費その他については, 今後も継続できる見込みとの前会長からの判断が示された。

3. 会誌交換先について

- ・ 地方史研究, 日本史研究, 地方史情報に会長作成の送付文を添えて総務幹事が 18 号以降のバックナンバーを贈る。
- ・ 都司研究室に保管されている残部について確認の上, 国会図書館にもある限りのバックナンバーを贈る。
- ・ そのほかの学会について:リンク先候補の学協会に対して広報幹事がリンクに関する交渉を行なう。なおリンク先候補については前年度幹事会でも検討している。

4. つくば大会の準備状況報告

- ・ 宿舍の紹介は行なうが, 団体予約は行なわない。
- ・ 大会の詳細な日程については次回幹事会まで行事幹事が調べる。
- ・ 予稿集は編集委員会が 100 部簡易印刷で作成する。
- ・ 巡検(国土地理院の地図と測量の科学館と交渉中)は適当な場所に集合し貸し切りバスで移動する方針でバス会社を探している。
- ・ 行事委員会は委員長の下に武村, 北原・小松原・金田が加わる。

5. 各幹事の役割分担

幹事の役割分担を再確認した。

6. 会員からの提案への対応

会員から「歴史地震データベースの作成」「在外研究者の招聘」「刊行物の出版」「大会における特別セッションの設定」の4件の提案・要望を聞いている。

- ・データベースに関しては、提案者が具体的の方針を立て、自ら中心になって実行できる体制を考えていただきたい。幹事会は可能な範囲でサポートはできるが、主体になる余裕はない。
- ・在外研究者の招聘と出版物の刊行については予算的に無理であり、会としての活動としては対応できない。
- ・特別セッションについては、特定分野を特別扱いすることはしないが、シンポジウム型式で集中討論ができるような形を可能性も含めて行事委員会の中で検討する。

第2回幹事会の日程

12月14日(金)15時～17時地震予知総合研究振興会5階の会議室にて開催する予定。

2007年度第2回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2007年12月14日(金)15:00～17:30

場所:地震予知総合研究振興会5F 会議室

出席者:北原(会長), 武村(副会長), 植竹, 小松原, 宍倉, 堀川, 松浦(以上, 幹事)

議事

1. つくば大会準備に関して

前回の幹事会后、堀川委員長の下に北原・武村・小松原のほか新たに金田平太郎会員(産総研)を加え5名で行事委員会を構成。

- ・ 国土地理院の地図と測量の科学館に「大正関東地震」を主題とする企画展の開催を申し込み、11月29日に行事委員会(北原を除く)で国土地理院担当者(広報公聴室・大滝氏ほか)と打ち合わせを行った。打ち合わせで以下のことを協議。なお打ち合わせは協力的・友好的な雰囲気での議論が進んだ。
 - ①国土地理院主催で9～10月中旬に企画展を開催する方向で検討中
 - ②企画展開催期間内に地理院主催の公開シンポジウム(講師は地理院と歴史地震研究会双方から出す)を開催する方向で検討する
 - ③図録の作成を検討する
 - ④企画展にかかる費用は地理院が負担。開催形式などは地理院が判断するが、協力者など何らかの形で協力者個人または研究会の名が出せるよう依頼。
 - ⑤企画展開催の可否は2008年1月に決定。2008年4月以降に作業開始とするが、具体的な展示準備作業開始は展示受注者決定(早期決定の希望を伝える)後となる。
 - ⑥具体的な展示内容については、歴史地震研究会で原案を作成の上、協議する。
- ・ 日程について 総会では地理院研究者に企画展関連の案内を依頼することを考慮して9月12日(金)～14日(日)と決定したが、シンポジウム(地図と測量の科学館内のホールを使用する可能性大)を休日に開催する場合には3連休(9月13日(土)～15日(敬老の日))に日程を変更する方が良いという意見が多かったです。地理院からの企画展開催可否連絡(1月)を受けて日程を再検討する。
- ・ 巡検交通手段について 地理院企画展があるかどうか・シンポジウムにあわせて巡検を行うか否かで交通手段が大きく変わるため、地理院の回答を待って検討。

2. 役員選出規定について

- ・ 会長および監査役の選出規定を規約に加える方向で議論した。規約改正の幹事会原案は以下の通り
- ・ 第16条(役員選出)
 - 4 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

付則第3条 会長選出手続き

会長候補者は3名以上の推薦者をもって立候補し、総会の1週間前までに幹事に届け出る。

付則第4条 監査役選出手続き

監査役は3名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は、総会開催前に幹事に届け出る。

3. 他学会とのリンク・会誌送付について

広報幹事および財政幹事から他学会とのホームページリンクおよび会誌送付状況の報告があった。

ホームページ相互リンクができた学会等は 1)日本地震学会,2)日本火山学会,3)東大地震研究所,4)日本地理学会,5)砂防学会

相互リンク交渉中ないし未掲載の学会等は 1)日本災害情報学会,2)日本地質学会

(地すべり学会は当初交渉対象であったがリンクページがない)

会誌を送付した学会等は 1)史学会,2)日本史研究会,3)地方史研究協議会,4)歴史学研究会,5)人文地理学会,6)歴史地理学会

今後、交渉すべき学会として 1)日本地震工学会,2)日本第四紀学会,3)日本活断層学会,4)日本歴史学会の4学協会が名前に挙がった。また日本史研究会・歴史学研究会・人文地理学会・歴史地理学会について、会誌送付と共にホームページリンクを検討・依頼することを検討した。なお、人文地理学会から会誌送付に対する礼状を頂いた。歴史地震研究会 HP のリンク先紹介は、今後リンクが概ね完成してからまとめて更新することが提案された。また現行「役に立つリンク」から学会などを独立させたリンクページを設けること、「市町村変遷パラパラ地図」を加えることが提案された。

4. 自前(出前)講座について

会長から社会貢献活動の一環として、一般向けに歴史地震学関連講座を行うことが提案され、具体的な内容・方法等について今後継続して検討することになった。たとえば今後の会の活動として「出前講座」への積極的参加という形について検討することになった。

川崎市宮前区の依頼を受けて、同区が一般向けに行っている区民講座(2008年1月～3月)に歴史地震研究会から講師を派遣することになり、北原、松浦、宍倉、武村が参加することに決定。

5. 2009年の大会候補地について

小松原琢の提案により、滋賀県高島市ないし同大津市で開催する方向で現地との交渉を始める。

6. 論文寄稿状況について

12月14日時点で9編の原稿が寄稿されている。

第3回幹事会の日程

2008年2月13日(水)と仮決定したが、松浦編集幹事の都合により変更もありうる。

時間は15時～17時、場所は地震予知総合研究振興会5階の会議室とする。

2007年度第3回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2007年3月4日(火)15:00～17:00

場所:地震予知総合研究振興会5F 会議室

出席者:北原(会長)、武村(副会長)、植竹、小松原、宍倉、堀川、松浦(以上、幹事)

議事

1. 会誌作成の状況

＜寄稿状況と受理締め切り＞

査読つき論文 16 編・査読なし報告 1 編が寄稿されている。このうち 3 月 4 日時点で未受理の論文が数編ある。3 月 25 日までに編集幹事宛に適切に修正された原稿が届いたものは歴史地震 23 号に掲載する。

＜大きな問題が指摘された論文への対応＞

論文(査読あり)で厳しい意見が出された場合、編集委員の判断により報告(査読なし)へのジャンル変更を勧告することがある。その場合には査読を経っていないことを明記するように求めるものとする。

査読シートは著者に伝えないものとする。

＜印刷・発行・そのほか＞

会誌の発行部数は予算どおり会員向け 250 部とする。

23 号では紙印刷した別刷を作成する。

印刷・製本社は東京とつくばの複数社に見積もりを依頼した上、編集幹事が決定する。

カラー印刷を希望する人は少なかったため個別に相談してカラー印刷するかどうか決定する。

編集の負担軽減のため、査読者への論文送付は原則として電子メールによるものとする。

次回幹事会で、投稿・編集規程などの見直し(査読者層が少ないことへの対応・別刷の紙印刷を続けるか否か・論文発行時期の問題など)について議論する。

2. つくば大会関係

＜企画展について＞

国土地理院主催で、同院の地図と測量の科学館(つくば市)で、歴史地震に関連する展示を 9 月 9 日から 11 月 3 日まで開催することが決定した。この展示とそれに関連する講演会にあたって、国土地理院から歴史地震研究会あてに協力を要請されている。進め方等を国土地理院担当者と行事委員会で 3 月 13 日に協議する予定。

再び幹事 4 人(都司, 武村, 北原, 小松原)で下田訪問(5 月前半, 10 日か 11 日)。

＜巡検開催日について＞

当初 9 月 12 日～14 日を予定していたが、地理院との交渉を踏まえて 9 月 13 日(土)～15 日(月・祝)に変更する。13～14 日を研究発表会、15 日を国土地理院の地図と測量の科学館などの巡検および公開講演会とする方向で調整中。日程変更について会員向けにアナウンスする。

＜その他＞

国土地理院企画展の内容と関連する研究成果の発表を呼びかける。

3. 他学会とのリンク・渉外関係

＜ホームページ＞

古いリンクの一部を削除し、関連学会・機関や役に立つ情報に関するリンクページの更新を行っている。

＜歴史学研究会から依頼された研究会の紹介＞

会長宛に会誌『歴史学研究』の「学界だより」欄へ歴史地震研究会の紹介記事を寄稿するよう依頼があり、北原会長が原稿執筆。歴史学研究 4 月号に掲載予定。同様の原稿を歴史地震 24 号(2009 年発行)に掲載できないか検討。

4. 2009 年度大会関係

滋賀県大津市で開催することを決定。小松原が関係機関と交渉を行っている。巡見の候補地である大津市歴史博物館に歴史災害関係の資料を展示できないか打診する。

5. 役員交代

財政幹事・総務幹事は来年度交代を希望。幹事会で後任候補を探すことになった。

第4回幹事会の日程

2008年6月3日(火)15時から地震予知総合研究振興会で幹事会を開催予定。

第25回歴史地震研究会(2008年9月13～15日)開催のお知らせ

今年で25回を数える歴史地震研究会を、9月13日(土)から15日(月)の3日間にわたって茨城県つくば市で開催いたします。今回は国土地理院にご協力いただき、同院の地図と測量の科学館で開催される企画展示の見学と講演会の聴講を、研究発表会のほかに計画しております。

つくばエクスプレス線が開通してから、つくばは文字どおり劇的に変わりました。昔のつくばをご存知の方には、変貌したつくばをご覧になるのも一興と思います。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日程

○9月13日(土)研究発表会1日目・懇親会

9時～17時 研究発表会 於:(独)産業技術総合研究所共用講堂

18時～20時 懇親会(研究発表会会場よりバスにて移動)

○9月14日(日)

9時～16時 研究発表会 於:(独)産業技術総合研究所共用講堂

16時30分～18時 歴史地震研究会総会 於:同上

○9月15日(月:休日)

国土地理院 地図と測量の科学館で開催される企画展示の見学と講演会の聴講

つくばエクスプレス線つくば駅に集合、夕方つくば駅にて解散。雨天決行。

各種申し込みについて

1. 研究発表の申し込み

5月末日までにEメールまたはファックスにて、発表者リスト、発表タイトル、希望発表形式(口頭・ポスター・いずれも可)、を下記までお知らせください。発表形式は必ずしもご希望に沿えない場合があることをご了承ください。また、発表数によっては前記の時間が変わります。なお、会場にはPC接続可能な液晶プロジェクタとOHPを準備いたします。スライドプロジェクタは使用できません。PCは各自ご持参ください。なお歴史地震研究会に入会されていない方は、入会してから発表を申し込まれるようお願いいたします。入会方法は今号の2項後あるいは本会ホームページをご覧ください。

研究発表申込み先:松浦 律子 (Ritsuko S. Matsu'ura)

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1-5-18 千代田ビル5F

地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター解析部

FAX:03-3295-1598 電子メール:histeq•••adep.or.jp

2. 予稿原稿の送付先

発表1件につきA4サイズ1ページ、カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿をご用意願います。白黒印刷であることに配慮した作成(特に図や写真)をお願いいたします。原稿は電子メールまたは郵便にて下記までお送り願います。7月末日必着といたします。編集の都合上、可能な方はEメールにWord等のファイルを添付してお送りください。

予稿原稿の送付先:研究発表申込み先と同じです。

3. 宿泊について

宿泊の予約は各自にてお願いいたします。一般につくば市内の交通の便は悪いのですが、会場の最寄

り駅であるつくばエクスプレス線つくば駅周辺は比較的良いのでお勧めです。つくばコンベンションビュローのホテル紹介 (http://www.intio.or.jp/tsukuba.cb/6_01_hotel.html)などを参考にしてください。

4. 昼食・懇親会・企画展見学の申込み

7月末日までに下記まで電子メール、ファックス、郵便のいずれかにてお申し込み下さい。連絡が不確実になるため、電話による申込み及び変更は原則お受けできませんので、予めご了承願います。

申込み先: 金田平太郎(Heitaro Kaneda)

〒305-8567 つくば市東1-1-1中央第7 産業技術総合研究所活断層研究センター

ファックス029-861-3803 rekishi08@m.aist.go.jp

プログラム決定後の詳細は地震学会ニューズレター7月号および当研究会ウェブサイト(<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>)にてお知らせいたします。

大会全般に関する問い合わせ先: 堀川晴央(Haruo Horikawa)

〒305-8567 つくば市東1-1-1中央第7 (独)産業技術総合研究所 活断層研究センター

TEL:029-861-3989 FAX:029-861-3803 電子メール:rekishi08@m.aist.go.jp

『歴史地震』原稿募集のお知らせ

2009年4月発行予定の会誌『歴史地震』(第24号)の原稿を募集します。原稿の締め切りは、2008年12月14日です。発行までは、査読者による原稿査読、著者による原稿の改訂、編集者が体裁などを整えて印刷所に入稿という手順があり、例年、著者・査読者・編集者のいずれにとってもきつい日程にならざるをえません。皆様のご協力が欠かせませんので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、講演要旨、報告などを取り扱います。編集委員会では、第24号を次の記事を中心に構成する方針です。投稿をお待ちしています。

- (1) 2008年9月の第25回歴史地震研究会での発表内容に関連する論文または講演要旨
- (2) 昨年までの研究会で発表された内容、そのほかのオリジナルな内容、各種報告

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集委員会で編集作業を進めます。
2. 論説については、査読制は取り入れています。少なくとも一人が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁『歴史地震』の標準形式」を定めています。これは歴史地震研究会のwebサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできます。
4. 電子媒体での投稿を奨励します。少なくとも本文は文書ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えます。前記のウェブサイトには、投稿者用のチェックシートもありますので、ご利用ください。
5. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
6. その他詳細は、次の編集規定をご覧ください。また、以下のチェックを投稿前をお願いいたします。

『歴史地震』への投稿前チェック項目

- ・原稿は標準形式のワードファイルですか？

標準形式は、A4用紙で、左右の余白が各2cm、上下の余白は各2.5cm、フォントは和文が明朝体、英

文がTimes, 句読点は「,」と「.」です。和文タイトル16ポイント(以下ptと略)英文タイトル12pt, 所属・著者名は10.5pt英文要旨も10.5pt。著者の連絡先は和文の所属に脚注として加えてください。キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入してください。ここでセクションを切り替えて、本文は2段組で段の長さ8cm, 段の間は7mm程度とすれば本文は10.5ptで1行22文字, 1ページ45行となります。

- ・ 原稿の種別は？ 論説・資料・講演要旨・報告・紹介・研究会記事
論説・資料は査読があります。
 - ・ 標準形式でA4刷り上がりページ数は？
原稿種別によって規定より長いとページ超過料金が発生します。
 - ・ 論説・資料の場合は以下のものが揃っていますか？
和文と英文の表題 和文と英文の著者と所属 英文200語程度の長さの要旨
英文5語程度のキーワード 本文(和文, 図表, 引用文献)
 - ・ その他編集担当にご連絡があれば原稿送付時のメールか添え状にご記入ください。
特にカラー口絵にしたい図がある場合は, その旨, 明記してください。費用負担は図にもよりますが, 最低1ページ1万円程度の出費は覚悟が必要です。また, 紙別刷りをご希望の場合にも, 投稿時に明記してください。
 - ・ 本文中で和暦と西暦が混同される危険はないですか？
歴史地震研究会では和暦は漢数字, 西暦はアラビア数字を推奨しております。
 - ・ 1582年以前の西暦はユリウス暦ですか？あるいは暦が明記されていますか？
- 以上の項目をご確認のうえ, 投稿いただきますよう, お願い申し上げます。

歴史地震研究会会誌編集規定

総則

1. 本規定は, 歴史地震研究会(以下, 本会)の会誌の投稿, 査読, 編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は, 『歴史地震』とする。英文では, Historical Earthquakes と表記する。
3. 本会の会員は, 会誌に原稿を随時投稿できる。また, 会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は, 会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として, 査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別, および査読の手順と基準は, 細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし, 詳細は細則に定める。
 - (1) 投稿者は, 編集出版委員会に原稿を提出する。
 - (2) 編集出版委員会は, 投稿された原稿を速やかに受け付け, 受付日を記録する。また, 原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
 - (3) 編集担当者は, 投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し, 必要と判断した場合は, 著者に修正を要求することができる。
 - (4) 査読の対象となる原稿は, 以下の査読手順を経ることとする。
 - a) 編集出版委員会は, 会員または会員以外から査読者を選定する。
 - b) 査読者は, 細則に定める基準に従って原稿を点検し, 編集出版委員会に意見を提出する。
 - c) 編集出版委員会は, 投稿された論文の掲載の採否を, 査読者の意見に基づいて決定する。
 - (5) 編集出版委員会は, 掲載を可とした原稿について, 受理日を記録する。
 - (6) 投稿者は, 原稿を校正および清書した後, 最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は, 総会が決議した事業計画に沿う。また, 会誌に掲載した記事は, 本会のホームページで公開する。

8. 会誌に掲載された記事の著作権は、本会に帰属する。

細則

(原稿の種別)

1. 会誌は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は、論説・資料、講演要旨、報告・紹介、研究会記事とする。
2. 記事の種別は、次の基準で分類する。
 - (1) 論説・資料は、次のいずれかであり、査読の対象となる。
 - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
 - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し、研究に寄与する価値を有する論文
 - (2) 講演要旨は、直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
 - (3) 報告・紹介は、研究集会の報告、研究プロジェクトの紹介、著書の紹介など、新しい情報に関する短い記事である。
 - (4) 研究会記事は、本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として、幹事会または各委員会が執筆する。
3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4 頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。
 - (2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。

(投稿者)

5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。

(編集担当者)

11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
 - (1) 明白な誤りがないか
 - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
 - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
 - a) 掲載可
 - b) 修正を条件に掲載可
 - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定

- d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
- e) 掲載不可

ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b), 原稿種別を変更すべき場合は b), 原稿に相当大幅な修正を要する場合は c), 複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d), 原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e), 細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e), と判定する。

13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。

(査読者)

14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。

15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を人選し、依頼する。

16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。

17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者に通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。

18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。

20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2008 年発行の『歴史地震』第 23 号より適用する。

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、会員係(宍倉正展幹事)までお送り下さい。

送り先:宍倉正展(当会会員係)

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7 産業技術総合研究所 活断層研究センター

FAX:0298-61-3803 電子メール:m.shishikura@aist.go.jp

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 北原 糸子 殿
 歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

ふりがな 氏名		関連分野	
所属機関	名称・部署		
	住所 電話番号・FAX 電子メール	TEL:	FAX:
自宅	住所 電話番号・FAX 電子メール	TEL:	FAX:

----- きりとり -----

- 注 1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。
 注 2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。
 注 3: 会誌送付先を太字または下線付きなどで強調して記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

ふりがな 氏名	じしん さぶろう 地震 三郎	関連分野	災害科学
所属機関	名称・部署	歴史地震研究所・災害研究課	
	住所 電話番号・FAX 電子メール	000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1 TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002 〇〇@〇〇. 〇〇	
(自宅)	住所 電話番号・FAX 電子メール	000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1 TEL: 00-0000-0003 FAX: 〇〇〇@〇〇. net.jp	

歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正)

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所内に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

(1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第13条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除 名)

第 14 条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

第 3 章 役 員

(役 員)

第 15 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹 事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する。

2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。

3 監査役は会員の中から総会で選出する。

第 17 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。

3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。

4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。

5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 18 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第 19 条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

第 5 章 会 計

(資 産)

第 21 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 23 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない。

付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 本会則は、2006年9月17日から施行する。

組 織

総務委員会

文書の受付, 配布, 会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

財政委員会

予算の編成, 決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会, 除籍に関する事項および名簿に関する事項

行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会役員および委員名簿

役員名簿

会長 北原糸子

幹事 植竹富一, 小松原琢, 宍倉正展, 堀川晴央, 松浦律子

監査役 永井九一, 渡邊健

委員名簿

総務委員会 委員長 小松原琢

財政委員会 委員長 宍倉正展

行事委員会 委員長 堀川晴央, 委員 金田平太郎, 北原糸子, 小松原琢, 武村雅之

広報委員会 委員長 植竹富一, 委員 小山真人

編集出版委員会 委員長 松浦律子, 委員 井上公夫, 西山昭仁